



ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2017 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2016 最優秀賞

どうなん・追分

シーニックバイウエイルート

『いにしえ街道の景観を
活かした街づくり』

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

活動名称

～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～
ビューポイントパーキングの景観改善(電線移設)

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

支笏洞爺ニセコルート

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
シーニックバイウェイの原点と考える“美しい沿道景観づくり”と快適な休憩スペースの提供を目的とした取組。
⇒国道276号倶知安町「八幡ビューポイントパーキング」は、地域のシンボルである羊蹄山が一望できるスポットでありながら、電線・電柱が眺望の妨げとなっていた。
⇒電柱の老朽化による更新に伴い電線を移設し、羊蹄山を望む景観を大幅に改善し、シーニックデッキもリニューアル。
- 活動内容：ニセコ羊蹄エリア内のビューポイントパーキング3箇所での景観活動(草刈、花植え、ゴミ拾い、シーニックデッキ設置・維持管理)
※道路管理者との景観診断を経て、地域・電線管理者と連携した電線移設の実現(平成29年度)
- 活動期間：平成17～29年度
・実施場所：倶知安町八幡、京極町更進、喜茂別町相川の各ビューポイントパーキング
※電線移設は倶知安町八幡

②活動の体制

草刈・花植え・ゴミ拾い
シーニックデッキ設置・維持管理等

関係機関との調整等

小樽開発建設部
倶知安開発事務所

電線類移設
電線管理者

作業車・ゴミ回収等

道路維持業者



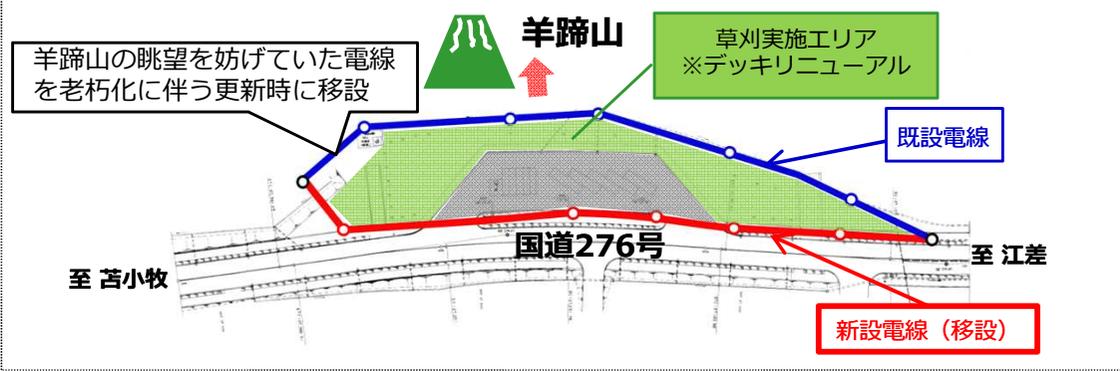
取組周知ポスター

③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・地域として大切な場所であるビューポイントの価値を高めるべく、10年を越えて継続的に維持管理活動を実施したこと。
 - ・地域・行政・道路管理者等の連携体制が十分に図られていた。
 - ・情報拠点等でのプロモーション展開(取組周知ポスターの掲示)
- 【活動による効果】
- ・地域資源(ビューポイント箇所)の高付加価値化
 - ・来訪者の滞在時間の増加/写真撮影者の増加

【「シーニックバイウェイ北海道」の取組により実現(全道初)】

- 平成15年度に「シーニックバイウェイ北海道」の取組としてルート活動団体と道路管理者で道路景観診断を実施し、継続して景観改善について検討
- 平成17～29年度にかけてビューポイントパーキングの維持管理活動(草刈・ゴミ拾い等)を継続展開
※3町合同(京極町、倶知安町、喜茂別町)は平成24年度～
- 平成28年度に電柱の老朽化に伴い、更新のタイミングで眺望を妨げない位置に移設する検討が進められる
- 平成29年8月に電柱が移設されビューポイントパーキングの景観改善が実現

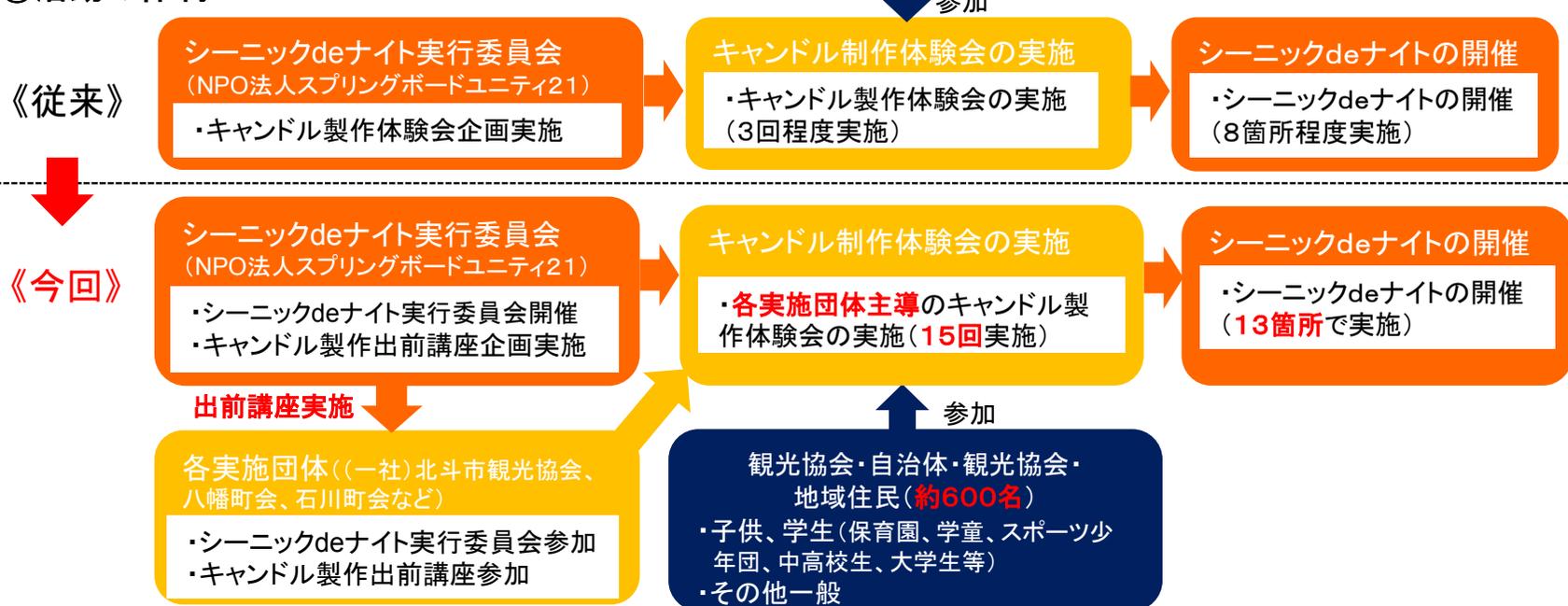


ルート名称 函館・大沼・噴火湾ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：これまでのルート運営に係る会議やイベントなどは、ルート事務局が中心となって企画・実施する部分が多く、今後のルートを主体的に運営できる人材の育成を行うことが必要な状況。
- 活動内容：シーニックdeナイトの取組において、シーニックdeナイト実行委員会開催による企画実施・運営に関する講習を各地域団体へ実施し、各地域団体主導によるキャンدل制作体験会やシーニックdeナイトを開催した。
- 活動期間：平成25年度～平成29年度

②活動の体制



第4東光保育園でのキャンدل制作体験会 (園児19名参加)



八幡町会館でのキャンدل制作体験会 (子供・学生70名参加)

③PRポイント

- ・シーニックdeナイトの各実施団体のリーダーに声をかけたシーニックdeナイト実行委員会を開催し、効果的な取組に向けた意見交換等主体的に地域で取り組むといった意識の醸成を図った。
- ・出前講座を通じて得たキャンدل制作方法の知見から、各実施団体のリーダーを中心とした制作体験会を企画・運営・実施した。
- ・また、キャンدل制作に関わった約400名の園児や学童などが、シーニックdeナイトのイベントにも参加してもらえた。
- ・地域人材育成に向けた取組を通じ、今年度ルート内の全自治体でシーニックdeナイトを実施することができた(計13箇所)。
- ・次年度に向け、キャンدل制作体験会やシーニックdeナイトに係る企画立案について検討する実施団体もいることから、地域一帯となった取組が図られたと同時に、地域人材育成の目的についても達成された。

活動名称 てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証

エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ

①活動の概要

- 活動の目標：増加する道の駅の利用者(特に夜間利用者)を町内・地域に誘導し、活力を取り戻すとともに、SBWの活動への地域理解を深める
- 活動場所と活動内容：道の駅摩周温泉の24時間トイレ前のスペース（平成28年8月から「てしかが情報掲示板」で情報提供を開始→継続中）

【背景】 H26・27に夜間利用者の現況調査を実施

- ・道の駅までしか来ない観光客(町内まで来ない)
- ・夜間の利用者(車中泊者も含む)の急増
- ・観光案内所は18時で閉まるため、夜間利用者の地域情報(入浴施設、飲食施設など)入手が困難

【平成28年度:情報提供試行の開始】

- ・辻谷運営委員長の**手作り**情報掲示板の設置
- ・弟子屈町商工会と連携して情報提供施設を抽出
- ・インフォメーションカードによる情報提供開始
- ・ルートと開発建設部による協働調査の実施
 - ルート: 配布枚数調査
 - 開建: 道の駅ヒアリング調査

◎成果: ニーズの高い情報の把握、高い利用者評価

▲課題: 情報提供による効果の定量的な把握

【平成29年度:クーポン付きカードの配布開始】

- ・カードへのクーポン機能の追加(H29年度は**8箇所**)
 - クーポンの利用状況で情報提供効果を把握
- ・ルートと開発建設部による協働調査の実施
 - ルート: 配布枚数調査、クーポン施設への調査
 - 開建: 道の駅利用者へのヒアリング調査

②活動の体制

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ

- ・情報提供実験全体についての調整、分析
- ・「てしかが情報掲示板」の作成と管理(配布枚数調査)

釧路開発建設部

- ・ヒアリング調査
- ・実験補助

地域(弟子屈町)

- ・情報提供場所の提供(道の駅)
- ・情報提供施設の紹介(商工会)



③PRポイント

- 苦勞した点や工夫した点：事前調査で地域情報へのニーズの存在はわかっていたが、「ニーズの高さ」や「情報提供による効果(行動変容)」の**定量的な把握**が重要と考え、調査方法を工夫した。情報板が地域の方の手作りであることも、空間に温かみ加わり、情報提供がうまくいっている理由であると思われる。

●活動の成果：

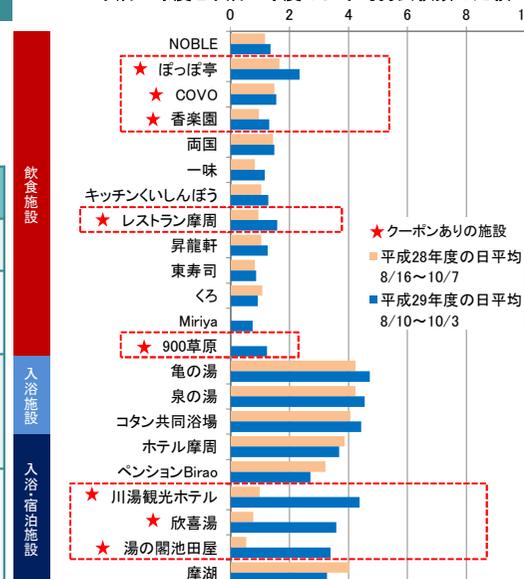
- ・入浴施設の**情報ニーズが非常に高い**ことを定量的に把握できた
- ・情報掲示板とインフォメーションカードで情報を収集した人が、実際に施設に向かう(行動変容の発生)状況を把握できた
- ・効果も明確で、**クーポン協力店舗から感謝、期待**されている

●今後の活動予定：

- ・短期:平成30年度もクーポン施設を増やして情報提供を継続する
- ・短期:開陽台(中標津町)の同様の情報板と連携して情報提供を行う
- ・中期:カードの印刷、追加について地域側(道の駅、商工会など)と協力、連携し、継続的に情報提供を行う体制を構築する

施設名	実験後のヒアリング結果
ぽっぽ亭	実験について、とても感謝された。
香樂園	5名グループ、2名×2グループが利用。活動に対して感謝された。
川湯観光ホテル	とても感謝された。クーポンを継続して欲しいと言われた。特に冬は人が減るので是非継続して欲しいと言われた。
欣喜湯	トラブルはなかったが、いろいろなサービス券があるので少し混乱した。また協力しても良いとのこと。

平成28年度と平成29年度の日平均持去枚数の比較



活動名称 利尻島一周サイクル ブランド化事業

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 宗谷シーニックバイウエイ

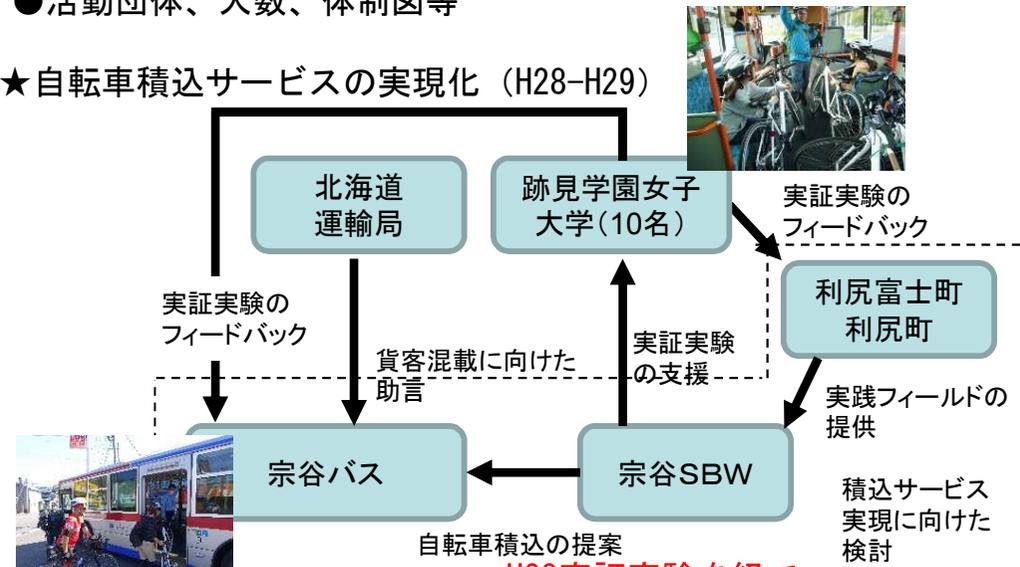
①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：宗谷SBWでは、宗谷地域の滞在型観光・スローツリズムを推進を大目標に「宗谷版スイス・モビリティ事業」を継続的に展開している。「環島」や「ピワイチ」などがサイクリストに人気を博している昨今、利尻島一周もサイクリングロード適地とすることを目標に、島内周遊の利便性向上とブランド化に向けた取り組みを行った。
- 活動内容：島内循環バスの自転車積込の実現化と利尻島一周サイクリングコースの愛称募集を通じたPR事業と利尻島一周ツアーの企画運営
- 活動期間：28年度～29年度

②活動の体制

- 活動団体、人数、体制図等

★自転車積込サービスの実現化（H28-H29）



H28実証実験を経て、
H29年自転車積込サービスの実現化！

★利尻島一周サイクリングコースの愛称募集を通じたPR事業（H29）

- 7月20日(木)～8月15日(火) 特設HP及びサイクル雑誌にて、愛称募集期間(全国から415件の応募)
- 8月27日(日) 「第29回利尻島ふれあいサイクリング大会」での人気投票
- 8月28日(月) 利尻島一周サイクリングコース愛称審査会
- 9月8日(金)～9月10日(日) 夜行バスで行く1泊3日利尻島サイクルツアーの実施

利尻・彩くるロード
Rishiri Cycling Road～The Multi-colored Trail～

日本海に浮かぶ最果ての「利尻山」。見る角度・季節によって様々な表情を楽しめます。麓には美しい海岸線が続き、海の向こうには礼文島と360度パノラマが続き、彩豊かな自然美・絶景がサイクリスト魅了します。

③PRポイント

【苦勞した点や工夫した点】①宗谷地域の二次交通の脆弱さの解消とスローツリズムによる地域の魅力増幅を連動させ、弱みを強みに逆転させる発想を採った。②全国的なサイクル雑誌を通じて愛称募集をすることで、全国的なPRを行った。また、サイクルイベントでの投票により実際に利尻島を走ったナマの声を反映できた。

【活動の成果】①H29年度に自転車積込サービスが実現し、ライト層でも島内自転車周遊を楽しめる環境整備が大いに前進した。②応募数が期待以上で、愛称募集を通じたPR手法に手応えあり。

【今後の活動予定等】①今後利尻島での実証結果を他地域でも応用し、自転車を観光手段の媒体とすることで、二次交通・三次交通が脆弱な中でも宗谷観光の楽しみ方を倍増させていきたい。②H30年は「利尻島ふれあいサイクリング大会」が30周年となる。周年と抱き合わせでより愛称を普及させていく取り組みを行いたい。

活動名称 『きた北海道エコ・モビリティ』の推進

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 天塩川シーニックバイウェイ × 宗谷シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラスにする方法を模索。⇒原始的でダイナミックなアウトドアフィールドを持つ、当エリアの地域資源や体験メニューを堪能しながら、JR（宗谷本線）を上手く活用し、地域全体の活性化・観光振興へと繋がるよう、移動そのものが観光となる新しい旅のスタイルを提供する『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進していく。自転車やカヌー、フットパスなどの「人力」による移動で、周遊性向上に繋がり、且つ、スロウな移動が地域への滞在時間を長期化、経済効果が生まれることも期待する。
- 活動内容／「道と川とJR」が並行する地域性を最大限に生かして様々な機関等での相乗効果を生むべく、モニターツアー（様々なアクティビティ体験+JR、自転車のみ+JR）を実施した。ストレスなく楽しめる「快適な旅」の提供として、移動時のストレスフリー（スムーズさ・快適さ等）やJR活用の検証のために、自転車のJRへの輸送や手荷物の当日配送による「手ぶら観光」を行った（ヤマト運輸による協力）。これらの実施結果も踏まえ、運営体制を強化、受け入れ環境整備等の充実を図った。

- 【具体的な取組】
- ・受け入れ環境の整備（モニターツアーでの周遊コース等の検証、サイクルラックやステーションの設置）
 - ・広報PR・情報発信（広域サイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」、HP作成、オリジナルロゴの作成他）
 - ・先進地視察（「しまなみ海道（愛媛・広島）」、「スイス・モビリティ（スイス）」他）
 - ・勉強会等の開催（実施内容の報告会、有識者等による勉強会、地元ガイド育成のための講習会他）

- 活動期間／平成27年7月～平成30年3月（*H30年4月以降も継続）
- 活動範囲／きた北海道エリア（天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村*実施内容により）

②活動の体制



▲JRへの自転車の輸送

◀地域ガイドによるおすすめコースの案内



▲「TEPPEN-RIDE」ゴールとなる日本のてっぺん「宗谷岬」にて。全員けがもなく無事に完走。



▲道の駅や主要施設等に地元木材を活用したサイクルラックを設置。

③PRポイント

★工夫した点・▲苦勞した点 ★スイスでの先進地視察にて、JRとの連結の重要性を感じ、JRとの協議を行った。★地域に根付き、末長く愛着を持ってもらえるよう、地域産の食の提供や地元木材を活用したサイクルラックを作成した。★他機関との情報共有を密に行い、それぞれの取組状況を考慮しながら実施内容を検討し、エリア全体としてより効果的な事業展開となるよう努めた。▲取組が広がり増える中、地域・団体、自治体、企業等への取組に関する理解が難しかったが、目に見える形（ラックや広報PR、外部からの地域への注目等）で動きが活発になり、賛同し協力してくれる仲間が徐々に増えていった。

- 活動の成果 ●旅行者ニーズ&地域での機運も高まり、エリア内でのスポーツレンタサイクル事業が急速に進んだ（天塩川S BW内で合計100台以上の購入、レンタルを開始）。●地元でのサイクリストが増え、地元でガイドできる人材が豊富になった。●ヤマト運輸との連携体制（手荷物の当日配送）が構築できた。●観光庁の周遊観光ルートの認定、サイクルツーリズムのモデルコースになった。

■今後の展開／・カヌーとの連結確立 ・JRとの更なる連携 ・本取組の地域への浸透（普及）・継続的な事業実施のための資金確保